剣風

「剣風」
題字：細川武敏（41 期）筆
OB 会報誌第１８号
平成２２年１２月１日発行
制　作：ｃｂ鼓　囃　子

快挙！平成二十二年度
美ら島（ちゅしま）沖縄総体２０１０
インターハイ出場

大将が試合中断直後に鮮やかな出端小手を決めた。残り時間もあとわずか。

「全国への挑戦」を胸に、総体予選の決勝は長野商業との対戦となった。先鋒（三年大木）戦を延長で制しながら、中堅戦を終わった時点で逆転を許していた。副将（三年朝日）が面を奪い、二勝（三本）対二勝（四本）。一本勝ち以上でなければ再逆転できない状況の中で、大将（三年下形）は攻め続け、出端小手を決める。試合終了の笛が鳴り、実に二三年ぶりのインターハイ出場が決まった。

それから二ヶ月。一〇九期の三年生を主力とするチームは沖縄入りをした。那覇空港では航空自衛隊沖縄基地司令の宮川先輩（七六期）に出迎えていただいた。このチームは県大会後の北信越大会でも快進撃を続け、三三年ぶりの三位に入賞したが、その三三年前のチームの大将が宮川先輩である。

初日は移動のみ。二日目は宿舎の体育館で稽古。標高四〇〇メートルの多野岳の頂にある体育館のためか風通しがよく、沖縄で稽古しているという実感はあまり湧かなかった。

三日目も同様に午前の稽古をして、午後。開会式。ついにインターハイの実質的開幕である。監督証、選手証を手にすると改めて、「全国」に来たのだという実感が湧いた。

四日目は大会初日は個人戦が行われた。長野県大会で二位になった下形が出場する。一回戦は大社（島根）の中尾選手。中盤にきれいな面を奪い、勝ち上がり、二回戦は龍谷（佐賀）沓掛選手。開始早々面を奪取。惜しくも三回戦で土浦日大（茨城）の山下選手に敗れたが面にこだわり続けた成果を発揮できた。

五日目。団体戦。初戦は育英（兵庫）全力で挑むも、全国の力を見せつけられた思いがする。

第一試合	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
育英	井上	鈴木	森塚	土井	吉川
	ド	コメ	メメ	メ	メメ
上田	大木	朝倉	正村	朝日	下形

湯本（福島）戦は三年生にとって現役最後の試合になる。

第二試合	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
湯本	**高橋**	角田	馬目	成田	鶴岡
	コ				ココ
	メメ	ドコ		メメ	
上田	大木	朝倉	正村	朝日	下形

先鋒は小手を先行されるも逆転で先勝。次鋒は一年生ながら思い切りよく攻め勝ち、優位に勝負を展開。副将が面を先取した後、本人にとって最高の相面勝負を制し勝負あり。チーム最後の試合となったのは残念だったが、公立の進学校でも全国で勝てることを証明してくれた

全国へ行くことの大変さ、全国へ行くことのすばらしさ、全国へ行ったからこそ分かる多くの人への感謝。本当に多くの事を学べた夏になった。

ご支援ご声援をいただいたＯＢの諸先輩に衷心より御礼申し上げます

（監督　七七期神津）

「美ら島沖縄総体２０１０」

前保護者会長　下形眞生

上田高等学校剣道班ＯＢ会の皆様方には、剣道班に対しまして絶大なるご支援とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。本年一月九日、上田城跡公園体育館剣道場におきまして、然したる実績もない中、男子試合用胴「紅溜塗刺重菱鬼雲飾」の立派な胴七台をご寄贈賜りました。生徒達は、歴史に残る実績を刻み染込ませて行く事がＯＢの皆様方への一番のお礼だと実感したようです。保護者会も身に余るご厚意に、新たな揃いの胴をつけ気持ちを一つにして、伝統ある上田高校剣道班の誇りを持ち、目標達成に向け努力して頂きたいと思いました。その様な気持ちで今年をスタートさせ、長い道のりではありましたが、六月の長野県高校総体で男子団体優勝、個人二位となり、ともに全国高校総体出場のキップを手にする事ができました。しかし、新人戦で優勝し長野県トップレベルと目されていた女子チームが、全国高校総体のキップを逃し大変残念な思いをしました。その二週間後に富山県で行われました北信越大会では、男子団体で三位入賞を果たし、インターハイに向け大きな弾みとなった大会でした。また、女子団体も最後の高岡高校戦では5対0で勝利し、チーム力で戦う大変素晴らしい試合でした。

八月一日、監督・選手団は、ＯＢ会長羽田様、幹事長竹内様、副幹事長佐藤様はじめ大勢の生徒・保護者に見送られ上田駅を出発しました。今年の全国高校総体は全競技が沖縄で開催される為、応援者は航空券やホテルの手配などで苦労しましたが、応援の生徒・保護者総勢十九名が沖縄県名護の地に出向き現地入りしました。剣道競技会場は、沖縄県名護市の「名護二十一世紀の森体育館」で、八月三日が開会式、競技は八月四日～六日、六日の競技終了後閉会式の日程で行われました。大会会場には、全国各地で勝ち上がったアスリートや監督・コーチ、また、競技役員や関係者、応援団、観戦者で大変ににぎわっており、体育館前の道路を隔てた名護市民会館前の広場には各試合場ごとのテントがあり、その中で大スクリーンによる試合中継が放映さ

れていて、試合会場に入れなかった多くの人達がスクリーンに向かって応援や観戦をしていました。また、数々の総体グッズや記念のお土産品等の店も多数出店しており大変にぎやかでした。時折スコールがあり、休憩テントに逃込むこともしばしばありました。試合会場の観覧席は全てが指定席となっており、入場が厳しく規制されチケットがなければ入場できず、競技一日目と二日目は一日3回の入替えとなっていました。出場校応援者用指定券の割り当てが、団体戦分は人数分足りましたが、個人戦分が3枚しかなく、早めに現地入りされた保護者が前日のチケット配布に長時間並んで下さり、団体・個人戦ともに全員が入場する事ができ応援・観戦できました。また、2階の観覧席通路壁面には、大型の仮設エアコンが二十四機設置されていて、環境の良い試合会場となっていました。

八月四日、女子団体の予選リーグ終了後、午後3時過ぎより男子個人戦4回戦までの試合が行われました。男子個人戦出場の下形は談4試合場において、1回戦、中尾選手（島根県大社高校）と対戦し、中盤、先で仕掛けた相面で一本勝ち。2回戦、沓掛選手（佐賀県龍谷高校）戦は、開始早々出鼻からの相面で一本勝ち。3回戦、山下選手（茨城県土浦日大）戦では、攻めの面を封じられ、引き面を何本か打ちましたが決めきれず、終了間際、小手勝負に行き、相手がすり上げ様としたところを小手に当て右に決めに行った所を面に返され惜しくも敗退しました。

翌八月五日は男子団体予選リーグが行われ、上田高校の対戦相手は育英高校（兵庫県）と湯本高校（福島県）で、第2試合場で行われました。上田高校の初戦となる第4試合、育英高校戦。既に育英高校は湯本高校を破り一勝しているため、決勝トーナメント進出のためには勝つしかありません。先鋒の大木選手が終始攻めましたが、面抜き胴、次鋒の朝倉選手は出鼻小手と面、中堅の正村選手は引き面と面、副将の朝日選手は面抜き面、大将の下形は引き面と面をそれぞれ対手に与えてしまい、試合の流れをつくる事ができないまま完敗してしまいました。

第6試合、インターハイ最終戦となる対湯本高校。先鋒の大木選手は前半出鼻小手を取られるものの面を取り返し、そのまま延長戦に持ち込み面で逆転勝ちし次鋒戦につなげ流れをつくりました。次鋒の朝倉選手は一本目面返し胴、二本目小手を取り2本勝ちで王手をかけました。中堅の正村選手は積極的に攻めるも延長の末引き分け。副将の朝日選手は一本目左に回り込みながら攻めた所で面に飛び旗が三本上がり、二本目も出鼻からの相面を征し勝負を決めました。大将戦の下形は、長身の上段から振り下ろして来る小手を2本奪われ、結果3対1で勝利。予選リーグ1勝1敗の2位となり、翌日の決勝トーナメントには進むことは出来ませんでしたが、今年度の上田高校剣道班の集大成となる素晴らしい試合を見せてくれました。

試合終了後、会場外の芝生広場において、神津監督、竹内コーチ、選手の下形、朝日、大木、正村、朝倉、鬼久保、石田、三井マネージャーの一人一人から挨拶を頂きました。その場には、保護者や生徒の応援団の他、一緒に応援下さった佐久長聖高校の小平先生、安倍先生、中村選手高橋君も同席下さり、感動あふれる一言一言に全員目頭が熱くなっていました。そして保護者を代表して、素晴らしい試合を見せて頂いたお礼と、長野県代表としてやり遂げた自信と誇りを持ち、胸を張って地元上田に帰って頂きたいと話を致しました。　ただ強いだけではインターハイには行けない。OB会の皆様、顧問の先生方、地域の皆様、先輩同期最後の仲間、保護者等、皆様からの支えがあり、色々な全ての要因がそろい出場できたものと思います。上田高等学校剣道班がインターハイ出場を果たした。その中で試合に出たのが男子団体と個人であり、班員全員で勝ち取ったインターハイであると考えます。八月七日夕刻、監督、選手団が大勢の保護者や生徒達に出迎えられ上田に凱旋いたしました。駅前で、神津先生からの報告と挨拶につづき、選手を代表して班長の下形より御礼の挨拶があり、盛大な拍手の後解散となりましたが、生徒たちは名残惜しいのか解散後も話が尽きなかったようです。既に新チームでスタートをしています。また長い道のりとなりますが、来年の全国高校選抜大会、インターハイと男女共の出場を目指し頑張って頂き、新たな歴史を男女の試合胴に刻み込んで頂きたいと思います。

OB会の皆様には改めて感謝とお礼を申し上げますとともに、OB会の益々のご発展と皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、筆を擱かせて頂きます。

平成二十二年十月十日

「出場選手の言葉」

先鋒　大木孝弘（三年一〇九期）

自分達上田高校剣道班は、八月三日～六日にかけて開催された沖縄総体に出場しました。自分は団体戦の先鋒として試合をしましたが、全国大会ならではの空気や緊張等により、予選第一試合目において自分の剣道があまりできずに負けてしまいました。結果的にチームとしても負けてしまい、その時点で決勝トーナメントへの道は断たれました。しかし、残された最後の試合を悔いの残らないよう、全力を出し切って戦おう、とチームで話し合い、最終試合に臨みました。結果、三対一という見事な勝利を収めることができました。全国大会は自分の中で大きな自信になったと思います。そして先生方や保護者の支え、仲間がいたからこそ、今大会に臨むことが出来ました。その感謝の気持ちを忘れず、この経験をこれからの人生に活かして行きたいと思います。

次鋒　朝倉雄磨（一年一一一期）

自分がインターハイに行って一番感じたことは、空気が違うということです。今まで雑誌やテレビでしか見たことのないチームがいて、北信越とはまた違った感動と緊張とが混ざったものを感じました。しかしいざ試合が始まると、有名強豪校同士の力は大差なく、試合が展開されていました。勝ち残った最大の要因は気持ちの強さだと思います。自分らも初戦、緊張して大敗。二戦目、緊張が和らぎ、快勝。やはり必要なのは心の強さだと思います。今までの上田が県大会、毎年シルバーコレクターだったのは、そこにあると感じます。技術だけでは勝つことができない。メンタルトレーニングも大事だ。そのような色々な収穫があったインターハイでした。

中堅　正村　亘（二年一一〇期）

自分は全国大会という立場で中堅として試合をさせて頂きました。見るだけでは分からない全国の凄さを肌で感じることが出来ました。一番驚いたことは捨て身の打ちです。自分は試合をしている時に『面を打てば、出ばな小手を取られるかもしれない』と考えてしまい、中々思い切った打ちというのを出せません。しかし、全国の選手達は『取れるものなら取ってみろ』と言わんばかりの捨て身の打ちをします。その結果、出ばな小手を打ってきたとしても、面が打ち勝つということが何度も起きていました。『取られたくないから打てない』と考えてた自分の未熟さを実感しました。この経験から、捨て身で打つことと強気な試合運びをすることの二点を重視して、稽古をしていきたいと思いました。来年は新しいチームで、また全国大会出場できるように努めたいと思いました。

副将　朝日皓太（三年一〇九期）

私はインターハイで試してみたいことが一つありました。それは自分の面打ちが全国の舞台でも通用するのかということです。私は中学生の時から面打ちにこだわり、面打ちを武器にしていたので、その面打ちで勝つという気持ちを持って試合に臨みました。大会の結果は予選リーグ敗退という決して満足のいくものではありませんでしたが、個人としては、現役最後の試合で満足のいく面打ちで勝つことができたのは今後の自信になりました。しかし、それに満足せず更に精進し、面打ちに磨きをかけていきたいです。最後になりましたが、三年間指導してくださった先生方、様々な面で支えて下さったOBの方々や保護者の方々に恵まれ、苦楽を共にし、一緒に闘ってきた大好きな仲間に出会えたことに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

大将　下形将央（三年一〇九期）

一月にOBの皆様から新しい試合胴をいただき、よりインターハイへの思いが強くなりました。そして日々稽古に励み、団体・個人のインターハイへの出場券を得ることができました。現地入りして三日目に開会式がありました。全国大会というだけあって、華々しい雰囲気の中にもピリピリとした緊張感があり、またこの会場で試合をするのだと思うと興奮したことを覚えています。

その翌日の4日目、私は個人戦の試合がありました。上田高校としての先鋒戦であるというつもりで臨みました。今まで自分がこだわってきた面で勝負することができ三回戦まで進めました。全国という舞台で自分の剣道ができたということは満足だったのですが、もっと上にあがりたかったという悔しさもありました。そして五日目の団体戦。初戦は兵庫県代表の育英高校でした。この試合は上田高校本来の力を発揮することができず、悔しい負け方をしました。二試合目は福島県代表の湯本高校でした。自分達は決勝トーナメントに上がることはもうできないことが決定しており、このチームでの最後の試合だったので全てを出し切るつもりでやりました。そして湯本に勝つことができました。自分は班長をやらせていただいて、苦労することも多かったけど、先生方や仲間の支えがあったからこそ、ここまでやり通すことができました。本当にこの仲間で剣道ができて良かったと思っています。また、OBの皆様にはいつも私達を支えていただき、心から感謝致します。

補員　鬼久保竜師（三年一〇九期）

八月三日から八月六日までの沖縄インターハイに自分は補欠として出場しました。三年間、ひたすらにインターハイの舞台を目指し稽古してきて、その出場が決まった時は感無量でしたが、実際に目の前で見る全国大会というのは正直自分の存在が場違いに感じるくらいでした。しかし、会場の熱気に奮い立ち一瞬一瞬を全力で過ごすことができました。そして、自分が選手として、沖縄の地に立てたのは、先生方、OBの皆様、保護者の皆様、先輩方、後輩のみんな、そして同期の仲間のおかげです。本当にありがとうございました。

補員　石田大地（二年一一〇期）

自分は最後の最後でレギュラーから外されて補員という形でインターハイに臨みました。実際外されてしばらく

は複雑な気持ちでいました。それでも一緒に戦ってきた先輩達がインターハイに出場してくれたことは本当に嬉しかったです。インターハイの試合はどの試合も一本へ懸ける気持ちが強く、観戦している方まで気迫が伝わってきました。そんな舞台で戦っていた先輩達はすごく格好良かったのと同時に羨ましかったです。

そして今回のインターハイ出場で、多くの人達が剣道班を支え、応援して下さっていることが改めて分かりました。幸せな環境で剣道をさせてもらっていることを、感謝の気持ちを忘れずにこれからも稽古に励みたいです。来年の青森インターハイんは、必ずレギュラーとして出場します。

「活動報告」

幹事長　七二期　竹内茂直

この一年間を振り返り、会員の皆さまにはまずもって二度の寄付のお願いに対し絶大な御協力を賜りましたことに心より御礼を申し上げます。現役生への試合胴贈呈、更にまたインターハイ出場支援にあたり、百名を超すOB諸先輩のご芳志をいただきましたこと、本当にありがとうございました。インターハイ出場支援の寄付金につきましては、支援金二〇万円の贈呈、刺繍記名入り袴九着の贈呈、剣道場記念額の贈呈、「剣風」号外の発行等に充てさせていただきました。おかげさまでOB会として十分な対応ができましたことをここに御報告致します。

さて22年度定例総会につきましては、去る6月26日にOB会員33名の出席のもと「祥園」で開催されました。今回は特に現役生のインターハイ出場を受けて急遽ご出席をいただいた皆様もあり、県大会の試合ビデオ視聴に始まり、出席者全員肩を組んでの凱歌斉唱までおおいに盛上った会となりました。また総会に先立っての宮下杯争奪戦・稽古会には、今年は特に宮坂信之氏（六四期）の御紹介により元警視庁剣道指導室主席師範・剣道範士八段の梯正治先生においでいただくことができ、熱心なご指導のもと緊張のなかにも大変充実した会となりましたことを併せて御報告致します。

最後に運動部OB会連合会についてですが、2月20日「ささや」にて定期総会が開催され、77名出席（内当班7名）の盛会のもと、幹事が水泳班から陸上班に引継がれました。また恒例の春秋の連合会ゴルフコンペでは、剣道班は団体戦で春に準優勝、個人戦で当班の柳沢収氏（七一期）が春に準優勝、秋には優勝と好成績を上げております。

会員皆様には引続きOB会活動への積極的なご参加・ご支援を心よりお願い申し上げ活動報告とさせていただきます。

「京都武徳殿に立って感激」

六二期　飛田武昭

本年五月三日、第百六回全日本剣道演武大会に初めて出場した。会場は平安神宮に隣接し、上田高校時代に御指導頂いた故塚原先生が学んだ武専のあった憧れの武徳殿である。五月二日、岐阜県羽島を出発し、京都市立体育館の八段審査会を見学後、武徳殿近くの聖護院御殿荘に宿泊し、翌日の早朝稽古（元立ちは範士及び教士八段）に参加、宿

に戻り朝食後、武徳殿に向かった。武徳殿は大変混雑しており、なんとか中に入ると、正面に立派な神殿、東西二つの会場に出場者の出身と氏名が毛筆書きされた木枠に入った対戦紙が演武順に各十組掲示されていて、厳粛な雰囲気であった。順番がきて道場に立った時、緊張感で心がひきしまるのを感じた。審判は範士八段、対戦相手は大阪の橘井先生、幸運にも開始一分位経過後、小生の出小手が見事に決まり、コと朱書きされた対戦紙を記念に持ち帰ることができた。道場の床板は幅広の分厚い白木で、かなり磨り減っていたがいたが、全く滑ることなく、スプリングが利いており、踏み込んだ時、ドーンと素晴らしい音と足裏への衝撃もなく、最高であった。

京都武徳殿は剣道修行する者にとって総本山であることを身を持って感じた。今後もこの大会に出場し、剣道の真髄を学び、生涯剣道に繋げていきたいと考えている。

「さらなる一歩に挑戦」

会長　六一期　羽田敏幸

今年一月、OBの皆様の御芳志により母校剣道部に古くなった試合胴に代わる校章入りの試合胴七組を贈呈することが出来ました。その胴を着けた選手が東信大会県大会を勝ち進み、男子団体戦と個人戦で沖縄で開かれた全国大会に出場し団体は一勝一敗、個人は3回戦まで進むという立派な戦績を上げました。これに先立ち北信越大会では団体3位というこれまたみごとな成績を収めてくれました。これを受けてOB会として再度寄付をお願いしましたところ、多数の皆様から御芳志をいただき、選手に記念の袴と参加補助金を贈呈することができました。ご協力に感謝し御礼申し上げます。

平成になっては、九年の女子個人、十七年の女子団体に次ぐ全国大会出場となります。奇しくも今年は、昭和三十五年に団体・個人が初出場してから五十年目の節目でもあります。これで、男子は団体で8回目、個人は12人目（女子は団体1回、個人2人）の全国大会出場となりました。記録を遡ってみますと、上中時代の大先輩達はすごい実績を残しておりました。昭和十四年、修道学院主催の全日本青年中学校剣道大会では見事全国優勝をしています。この大会は全国の有名実力中学や専門学校も参加する規模の大きな大会で、三人制の勝ち抜き戦で行われ1回戦、2回戦は中堅までの二人で勝ち抜き3回戦、4回戦、決勝戦は先鋒の萩原秀治氏（三九期、現OB会顧問）が一人で九人の相手を全て倒す大活躍をし大将は一度も面を着けることがなかった。当時、上中では伊藤長三先生が師範をしておられ、生徒は、しばしば道場を訪れた高野佐三郎範士・小沢愛次郎範士など日本を代表する高名な剣道家の稽古を受け、夏には高野先生の修道学院に合宿稽古に出かけ厳しい修行をしたと記録にあります。

私たちもOB会活動をとおして、先輩が残した偉業に一歩でも近づくよう現役生を援助していきたいと思います。いざ、試百難！

「今」

平成二十二年

男子は23年ぶりのインターハイと33年ぶりの北信越3位に輝いたが、女子も新人優勝、選抜予選準優勝、総体予選4位を果たした。男女二期連続北信越出場も果たした。また、現在の男子チーム東信新人戦において佐久長聖を倒しての優勝を遂げた。自分が顧問になって以来、公式戦で長聖に勝利したのは初めてであり、東信大会での男子の団体優勝も初めてであり、喜びはひとしおであった。

しかし、まだまだ先がある。選抜、総体男女アベック出場の悲願達成を胸に精進して参ります。

（顧問　神津77期）

平成21年度北信越高等学校剣道大会
(2/6,7)
男子団体1勝1敗（予選リーグ）
女子団体1勝1敗（予選リーグ）
平成22年度戦績
三条杯剣道大会（4/25）
男子団体3回戦
女子団体1回戦
第6回謙信公杯争奪高等学校剣道大会
(5/4)
男子団体ベスト16
女子団体予選リーグ
第147回東信高等学校総合体育大会
(5/15,16)
男子個人 大木孝弘2位　下形将央3位
石田大地7位　正村亘8位
男子団体2位
女子個人 三井祐1位　滝沢美保5位
女子団体2位
平成22年度長野県高等学校総合体育大会
(6/5,6)
男子個人　下形将央2位
男子団体1位
女子団体4位
平成22年度北信越高等学校剣道大会
(6/19,20)
男子団体3位
女子団体 予選リーグ3位
剣道班OB会第7回宮下杯（6/26）
男子1位 下形将央　2位 正村亘
女子1位 滝沢美保　2位 朝倉慶
平成22年度東信高等学校剣道選手権
(7/19)
1年男子 伊藤美満　矢ヶ崎日路3位
2年男子 石田大地　2位
平成22年度上小高等学校剣道リーグ
(7/25)
男子1位
女子1位
第3回上毛旗剣道大会（8/15）
男子1回戦
女子1回戦
第25回蒼龍旗争奪剣道大会（8/22）
男子 ベスト16
女子1回戦
第4回真田幸村杯剣道大会（9/12）
男子A1位　女子2位
第36回東信青少年剣道大会（9/26）
男子1位　　女子3位
第148回東信高等学校総合体育大会
(10/16,17)
男子個人 朝倉雄磨1位 矢ヶ崎日路3位
石田大地6位
男子団体1位
女子団体3位
第18回諏訪湖大会（11/14）
男子団体
女子団体
平成22年度長野県高等学校新人体育大会
(11/20,21)
男子個人
男子団体
女子団体

「昔」

明治三十四～五年

編集者注：小野田伊織、明治三十五年六月十八日着任～大正二年三月十七日、元長岡藩士、神道無念流練兵館師範代、明治三十二年武徳会精錬証、明治三十八年教士、明治四十一年範士

撃剣試合

由々新潟は冬長く雪深くして、舎内の遊技最も發達すべき機會を有す。ろれかあらぬか、撃剣に於ては雄名夙に天下に鳴り、去年京都武徳會にて、催せる晴れの場所に於ても新潟縣學生二拾有餘名出場者中唯一名を除いて、曾勝利者たり。餘威彌が上に盛なる折しも懸軍長駆、我校の健兒三名竹刀を負ひ、新潟縣高田中學校まで試合せんとて、武者修行に矛出掛けたりける。

時維明治三十四年十月十三日生憎や朝來の晴朝に似もやらず、微雨蕭々として至り、到底庭内に催し得べくもあらざれは、陰霧影暗き雨天体操場にて擧行するのあとと定りぬ、一番又一番、竹刀の飛ぶは電光の如く、掛聲は虎の哮ゆるが如し。長野方の旗色は亂れ立ちて矛見にける、負けての後の繰言と笑はるゝも口惜ければ今更審判及組合せの公不公に就て兎や角、批評か間敷ことを筆にするにあらねども、縣下はいざ知らず。他縣へ試合に出掛ける際には、此二点に就て、已が利益を正當に自衛する丈に有力なる代表者を參列せしめざることの危險をは、今回の行、明かに我念頭に印せしめたるを奈何せん。小林安衛氏は足を病んで行くこと能はず、小山茂氏之に代りて高〇綿貫氏に對す。沈勇善く戦ふ、嗟々我をして一言を審判に挟むを得せしめしあらばよ、軍扇は遂に綿貫氏に矛揚りける。次に長中對高中一番了りて瀧澤好氏對新師島崎豐氏、續て瀧崎保氏對高中布施貫三氏最后に長中嶋谷吾一氏對新師丸山雄吉氏を以て終局を告げ、三番共に新潟方の勝利と註されたり。前夜之を旅寓の主人に聞く、縣下、驍名の最も嘖々たる者を島崎布施両氏をなすと。之を戦うて驍る、亦多少の慰藉あるを覺ゆ。敗餘の某余に言て曰く爲すべき者は、旅に矛ありける、此行勝負に失ふとも經驗に得たる所、之を償うて餘ありと。臥薪嘗膽の苦を積んで會稽山の耻いつかは雪ぎなん。由來眠れる獅兒の姿を負へる中信の健兒自重自愛せよ。（牛行生）

二　秋季大運動會

秋風梧桐に音づれ蕭殺として聲あり天は高く馬肥わたるの候諸氏の腕いたづらに無聊に泣くの時、茲に十月三十日の佳辰を卜し第二回の競技會を開きぬ、本日こそ最後の戦なれば、各自我こそとひしめき合ひぬ、

○撃劍部　日本武德會驍將小野田伊織先生の審判の下に開かれぬ、未曾有の盛會にて木刀手にして立ち上りし士は何れも岩丈な士殊に瀧崎、小山の兩氏の如き誠に當日の花なりき、而して近縣にその名を轟かせし我撃劍部は道がに今日の華をあつめぬ殊に礼式の正しきと勝負に正にしてむさぐるしからざる事は曾て武德會にも許されし所、眞に古の騎士の觀あり諸氏それ永く此美風を保てよ、其成蹟優等者として金銀牌を授領せし者左の如し

金牌　瀧崎保君

銀牌　小山茂君　山浦助八君　武田叔三君
佐々木襄三君　大隅浦助君　稲玉信五君
石井冬一君　山本亮助君

「OB座談会・製造業編」

【司会・工藤】
今回は、製造業に携わっている大塚博文さん（六七期）と山﨑博久さん（六八期）と、司会も兼ねて、私・工藤武和（六七期）の三人が座談会を開催します。

【司会】
どのような形で製造業に携わってきましたか。

【大塚】
会社が早い段階で、海外での製造に着目していたので、海外の仕事が多かった。上海、シンガポール、中国など。南米とアフリカ以外はほとんど行きました。海外勤務といっても、華やかなものではなく、駆けずり回って仕事をするという感じだった。「出稼ぎ」というのが実感だった。海外で安く作って、輸入して売るという形体の事業を展開していた。

【山﨑】
私の場合は、無停電電源装置の製造に携わって、技術力で大手に対して勝負するという感じでした。自社の持つ技術力を使い、自動化して生産量を上げ、国内の競争力をつける。海外で生産するという動きが加速していたが、全部海外という訳ではない。

【工藤】
二三年前に役員として十七人から三二〇人規模の会社を立上げた後、独立して、現会社を設立した。三七歳の時だった。省力機械の設計、製造としてITバブルなど、様々な困難な時代に遭遇し、乗り越えてきた。今またそれ以上に、大変な状況を迎え、企業存続のため前向きに戦っていかなければならない。

【司会】
現在の状況をどのように感じておられますか。

【大塚】
景気は底値、難しい時代になってきた。物が一杯あり、豊かになっているが、必要な物を選んでいかないとダメ。また、何が受け入れられるか考えないといけない。

【山﨑】
全部自社で製造するというわけでなく、モジュール化して、対応していかないと、生き残るのは難しいと思う。

【工藤】
若者の体力と気力（人生の目標）がなくなってきている。就職難の時代になり、受け入れ態勢ができても辞めたりしてしまう。何が足りないか。ゆとり教育のひずみが関係するのだろうか？。

【司会】
これから先、日本の製造業はグローバルな視点からみてどのような形で推進されていくと思われますか。

【大塚】
会社の方針もあるが、グローバルな視野で見ていく。中国とかインドとかが活力がある。現地で作って、製品化する。人件費や、材料費、為替変動などの観点から見てもこの傾向は続いていくと思う。

【山﨑】
太陽光発電の商品に力を入れている。海外の原料エネルギーに頼らない自然のエネルギーを使った製品が、これから伸びていくと思う。

【工藤】
うちは自社製品中心なので、高くてもこの会社のこの製品でないとだめという、いい製品を作る。オンリーワンの製品を目指したい。いい物を守りながら、成立させていく努力をする。

【司会】
剣道の経験が、いままでの仕事の中に生きていると感じたことはありましたか？

【大塚】
剣道によって自然に染み付いてきた物はあると思う。剣道に限らず、運動部は、規律性があり、人間性がしっかりしていると思う。話をしてみると、ちゃんとしている人はわかる。

【山﨑】
特に意識したことはないが、仕事に反映していることはあると思う。剣道をして、健康を保ち、いい先輩方に出会えてよかったと思う。

【工藤】
試合のときに相手の目をみることによって、気持ちが読めた。仕事上、相手の目を見て話すとわかってくる。様々な試合の経験から、好機を逸しないように、チャンスの時に全身全霊を傾けるようにすることを学び、今も実行している。

【司会】
これからの抱負はいかがでしょうか。

【大塚】
プラスアルファで、個人で様々なことを選択していく。まだ、しばらく忙しいが、今後十年後を見据えて考えていく。

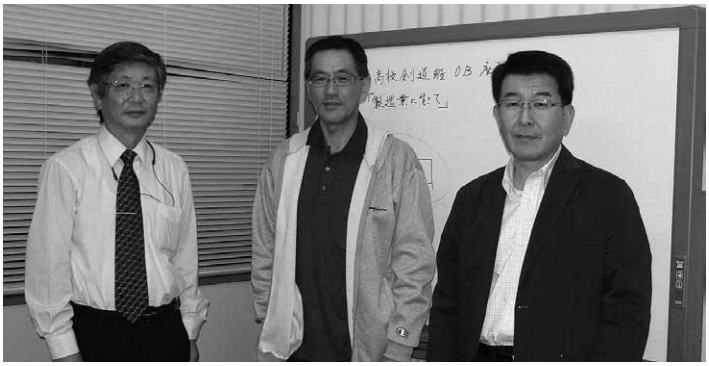
【山﨑】
若い人達をいかに育てていくか。自分が学んできたことを他の人にどのように残していけるかを考えていきたい。

【工藤】
いろんな人に使ってもらえる自社ブランドの商品を作っていきたい。「攻撃は最大の防御なり、守りに入ったら敗北が残るだけ」と自分を叱咤し行動していきたい。

【司会】
ありがとうございました。

【出席者】写真向かって右から
大塚博文（六七期）
ミネベア株式会社電子機器事業本部
計測機器事業部副事業部長兼技術部長
山﨑博久（六八期）
山洋電気株式会社上田事業所
パワーシステム事業部担当部長
工藤武和（六七期）（兼司会）
株式会社ジェー・ピー・イー代表取締役

【取材・編集担当】
正村聖美（八〇期・編集委員）



企業戦士集結

会員のひと言コラム

通信欄（葉書及びホームページより抜粋）

七四期　大森信吾
個人戦、素晴らしい成績でしたね。団体戦も1勝、素晴らしい、感激。ネットで成績をチェックしながらわくわくしてました。大健闘、ご苦労さまでした。ゆっくり休んでください。

七九期　池田俊朗
現役生は8月に入ればいよいよ沖縄インターハイですね。熱中症で亡くなる人も出ているくらい今年の夏は暑いので十分注意していただきたいと思います。さて募金ですが、同じ会社の剣道班OB・私池田（79期）と中沢（90期）、それと澤山大先輩（75期になるでしょうか？）に呼びかけて寄付をしました。集まった募金は生徒たちの熱中症対策に惜しみなく使ってください！神津先輩、よろしくお願いします。

六四期　宮坂信之
沖縄でのインターハイですが、大会の救護班は私の友人たちでした。お二人とも剣道六段で、しかも救護班とのことですので、上田高校剣道班にとっては百万人力の味方になります。これを力に頑張ってください。

六四期　春原和民
仕事の方も軽減されてきましたので稽古を中心にしています。

六二期　飛田武昭
本年5月3日、京都武徳殿での第106回日本剣道演武大会に初めて出場した。本年度から羽島市剣道連盟の理事長という要職を仰せ付けられた。

五六期　阿部祐之
現在体調不良のため今回は欠席とさせて頂きます。皆様方によろしくお伝え下さい。御盛会を祈念いたします。

六一期　羽田敏幸
昨日、久し振りに東信大会を見学しました。団体・個人とも上田高勢が活躍していました。（男女共に）新しい胴が輝いて見えました。

七〇期　柳沢元哉
上田に戻ってきました。現在六中に勤務しています。

七〇期　須永久
剣道の指導ですが、子供達（小学生）も減り、指導の側も減り今年度から全町で合同練習となりました。

九一期　辻利奈　代
男子の母親として今空手・水泳等奮闘しております。子育てを楽しんでいる様子です。

八九期　伊原（山辺）才子　父代筆
4歳と1歳の男の子を育てながらも剣道からは離れられず班活も見ているようです。

一〇五期　松井弓苗
来年の春から長野で働きます。最後の学生生活を楽しんでいます。

四六期　井出賢次
身体だけは元気ですが八十一歳を越えました。

九一期　大久保英幸
川崎市に勤務しているため欠席させて頂きます。盛会をお祈り致します。

七四期　関戸啓司
残念ですが当日社内の会議を予定しており欠席します。申し訳ありません。上田高校の今年の活躍を期待しております。

一〇七期　大木智恵
ご連絡ありがとうございます。大学の剣道の大会と重なり、残念ですが欠席させていただきます。

八一期　中村和宏
羽田会長をはじめ皆様によろしくお伝えください。

八二期　竹内英樹
仕事で出席できず残念です。

八七期　金森健志
スポーツ少年団で子供達との稽古を楽しんでいます。現役の皆さん、剣道と勉強の両立頑張って下さい。

八二期　中沢道彦
当日午前中に南牧村で業務が入りそうなので宮下杯の見学は微妙です。稽古にはギリギリ間に合うと思います。

七九期　宮崎　浩
3月にアキレス腱を断裂し稽古に参加させていただくことができません。申し訳ありません。県大会での現役生の活躍を祈念しております。

七五期　埴　佳夫
4年ほど前から剣道を再び始めました。

七四期　山田恒明
中学校の北信剣道大会（松代）の後伺う予定です。

七三期　山浦一雄
仙人をめざしております。

七二期　畑田美佐子
5年前の羽田先生退官OB会以来の出席です。剣道とは縁のない生活をしていますが、同期が役員でがんばっていらっしゃるので…

六七期　金澤信男
さる4月30日七段昇段させていただきました。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

六六期　清水通男
昨年はバブル経済崩壊以来の大不況でしたが、まだまだ中小企業は不況の中で苦戦しています。

八八期　田村敦　母代筆
松本の中学校で教員をしています。当日は生徒の部活の大会の為欠席とのことです。

八四期　茶碗谷剛
帰省しないので出席出来ません。皆様によろしくお伝え下さい。

六四期　宮坂昌之
右膝の靭帯損傷で少し稽古を休みましたが、幸い稽古が少しずつできるようになってきました。ご盛会を祈ります。

八三期　山木和佳
遠方につき出席できません。また機会があれば顔をみせたいと思います。

八三期　神尾亮一
OB会総会おめでとうございます。都合により欠席致します。連絡御礼まで。

一〇二期　輿水理美　在カナダ母代筆
皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

七四期　関口悦子
皆様の御活躍を上越から応援しております。

一〇五期　山浦　翔
毎年楽しみに参加させて頂いておりましたが、本年は就活中につき残念ですが欠席させて頂きます。よろしくお願い致します。

五五期　毛利義範
お盛会を祈ります。

一〇〇期　現田康太郎
帰省できずごめんなさい。

七六期　松井　敦
ごぶさたしております。少年剣道教室からはすっかり離れてしまいましたが、「剣道で教えるものは何か？」のテーマは追い続けております。

七三期　松井一明
佐久長聖を打破し、公立高の意地を示してください。

七六期　柳澤千恵子
幹事様いつも大変お世話になりありがとうございます。皆様に宜しくお伝え下さいませ。

九八期　西沢政則
仕事の都合で出席できませんが、よろしくお願い致します。

九三期　小林成郷
東京で現在会社員をしております。皆様に宜しくお伝え下さい。

七二期　箱山康弘
今回は都合がつかず失礼いたします。皆様によろしくお伝え下さい。

七四期　村山英樹
現在国内外での学会・講演等忙しい日を過ごしています。皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

五八期　保科紀丈
幹事諸兄にはご苦労さまです。都合が悪く欠席させて戴きますが盛会を祈ります。

一〇七期　清水貴茂
大学の部活の都合で参加できませんが、仙台の地から現役諸君へエールを送っています。現役諸君、ガンバ！

五九期　山口元彦
ご案内ありがとうございます。小生、仕事の外にもあれこれと用事をかかえて相変らずいそがしく動き回っております。どうか皆様によろしくお伝え下さい。

一〇六期　長坂友弥
残念ながら出席できません。よろしくお願いします。

一〇六期　山崎文香
お知らせ頂いたのに申し訳ありません。都合で欠席させて頂きます。

八二期　竹鼻健司
ご連絡ありがとうございます。当日は残念ながら仕事の都合で参加できません。

一〇五期　新井雅人
就活で出られません。これからも上田高校剣道班応援しています。

六八期　山崎博久
申し訳ありませんが、出掛ける都合があり出席できません。OB会の発展をお祈りします。

一〇七期　丸山　圭
現在一橋大学に在学中で日々頑張っております。

一〇四期　若林真実　母代筆
大学を卒業し働き始めました。御盛会をお祈り致します。

七二期　岩井　昇
当日は所用があって出席できませんが、みなさんによろしくお伝え下さい。

一〇六期　滝浪　遥
上田高校剣道班の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

一〇四期　柳田晃一郎
大学を卒業後、おもてなし修行として小豆島にある小さな日本旅館で働き始めました。暑くなりますがお体には気を付けて剣道を楽しんで下さい。ファイト現役生！そ

して104期！！

一〇六期　柳田千賀子

OB会当日はアメリカで行われる剣道大会に参加します。カナダ留学を期にまた剣道を始めました。今後ともよろしくお願いいたします。

一〇二期　新井雄太

今年は一年生の担任です。仕事のため出られません。残念ですがこれからも剣道班応援しています。

七三期　大島英穂

いつもご案内いただきありがとうございます。皆様によろしくお伝え下さい。

七二期　小林（神林）芳男

幹事ご苦労様です。今回は欠席するけれどそのうちまた会いましょう。

八三期　石井信幸

現役生の活躍を楽しみにしています。

名誉会員　丸山　温（元顧問）

腰を痛めてしまって剣道から遠ざかってしまいました。（正面打ちだけならともかく体当たりは恐くてできません）盛会をお祈り致します。

一〇八期　竹内聡一

来年に向けて予備校で頑張ってます。

六六期　飯塚芳幸

大変ご無沙汰しております。6月下旬はぶどう栽培で最も多忙な時期で、又今年から農家組合の大役を受け、当日は農家組合の事業が重なってしまい出席できません。皆様によろしくお願いします。

宮下杯優勝者の声

男子優勝　三年一〇九期　下形将央

今回は私にとっての最後となる宮下杯だったので、絶対優勝するという気持ちで臨みました。梯先生や大勢のOBの方々の前での試合ということもあって、普段の大会とはまた違う緊張感がありました。しかし、試合が始まると、一戦一戦集中することができ、昨年に引き続いて優勝することができました。優勝はできたものの、一試合勝つことも簡単ではなく、後輩達の粘り強さや気迫を感じることができ、とても頼もしく思いました。これまで自分達を支えてくださったすべての方々に感謝し、上田高校剣道班で培ったことを今後の自分に活かしていきたいと思います。

女子優勝　三年一〇九期　滝沢美保

自分にとって最後の宮下杯、現役最後の試合でした。後輩との試合は、力の差はなく、三年生との試合も、気持ちをぶつけあい、誰が優勝してもおかしくない状況の中で伝統ある宮下杯で優勝できたことを、うれしく思います。そして、最後まで試合に出させて頂けたのは、先輩方や後輩、同学年の仲間や先生方が、支えて下さったおかげで、引退まで続けてこれたことにとても感謝しています。本当にありがとうございました。インターハイに出場した男子の試合には、とても勇気をもらい、後輩の試合は、成長を感じやる気をもらい、期待しています。OBの先輩方や先生方からの指導、よきチームの一員として三年間過ごせたことに感謝しています。これからも応援宜しくお願い致します。

現役生の声

女子班長　三年一〇九期　三井　祐

中学二年の春休みに、今は筑波大学で剣道をされており、小・中学校で先輩であった滝浪先輩に勧められ、初めて上田高校剣道班の練習に参加させて頂きました。一緒に稽古をさせて頂く中で、先輩方の稽古に対する前向きな姿勢や仲間同士の絆の深さを目の当たりにして、私が班活動を通して学びたいすべてがここにある、ここで剣道がしたいと強く思ったことを、今でもはっきりと覚えています。

入班してから三年近い月日が流れ、二、三年時には女子班長も務めさせて頂きました。その任期の中でも特に心に残るのは、昨年の新人戦県大会の女子団体優勝と、今年の男子個人・団体のインターハイ出場です。

新人戦の時期は女子部員が四人しかおらず、中学校での剣道経験者を一人加えての県大会出場となりました。それまでの大会や練習試合などで、四人で一生懸命戦っても、一人足りない穴を埋められずに悔しい思いを数多く経験してきた私たちにとって、五人で戦えることがこれほどうれしいと思ったことはありませんでした。一つ一つの試合で着実に勝ちを重ね、決勝戦、毎試合必死に私まで勝負を繋いでくれた仲間の顔を見て自分を奮い立たせ大将戦に臨み勝利を収め、優勝することができました。さらに夏の本大会では男子が個人・団体共に、インターハイ出場という快挙を成し遂げました。「一位」になかなか手が届かず、悔しい思いをしてきたのをずっと間近で見てきたので、県大会での優勝が決まった時は本当に嬉しくて、涙が止まりませんでした。剣道班みんなで勝ち取ったインターハイなので、自分は出場することは出来ませんでしたが、充実した班活動の終わりを迎えられました。

このような剣道班の活動も、OB会の先輩方や保護者会の方々の御支援、御協力があってこそだと思います。本当にありがとうございました。高校生活の三年間、剣道を通して学んだ多くのことを糧にし、これからの目標に向かって歩んでいきたいと思います。

編集後記

現役生が目標として道場に掲げてあった「全国へ」の夢を現実のものとした。OB会としてもこの日の為に長い月日を重ねて、組織を充実させてきたので、応援のしがいがある一年であった。七四期で私達の代がお世話になった大森先輩が掲示板で語っている。「公立高校での活躍は、本当に嬉しいなあと思います。（略）東京都立の進学校は、運動部は二年で引退という学校がけっこう多いようで、いつももったいないなあと思っています。だから余計に頑張って欲しいですね。」女子は期待されている中、残念ではあったが、女子班長の寄稿は文章、内容共素晴らしく、現役の皆さんが班活動を通して多くのことを学んだことを嬉しく思う。剣道を学ぶ意味は『剣の理法の修錬による、人間形成の道である』とあるように、立派な社会人として社会に貢献できる人間になる事であると、全剣連で指導されている。やがてOBとなる現役生も私達も、共に精進して参りたいと思う。

（編集委員：佐藤、工藤武、神津、正村）

七六期「佐」記す

OB会ホームページ http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/

一月二日OB会のお知らせ

日時　一月二日

●14時半～OB対現役生対抗試合

15時～稽古会　上田高校第二体育館

●17時半～懇親会の受付

18時～懇親会　大門町「ささや」

（会費5000円）

※幹事　矢ヶ崎心哉（一〇五期）

080-3475-5006

来年度のOB会は6月25日（土）です

●会費納入のお願い●

会費（三千円）およびご寄付の納入は、十二月末日までにお願い申し上げます。

○住所変更の方は幹事長までご連絡下さい。

幹事長　72期竹内茂直宅

〒389-0505東御市和27789

もしくはOB会ホームページから管理人E-mail経由にて幹事長に取り次ぎます

http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/